



2018-19 年度 国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになるう

2018-19 年度国際ロータリー会長 バリー・ラシ

RI 2630 地区 岐阜東濃グループ

# 中津川 ロータリークラブ

地球の夜明け (NASA) (題字 岡口義也)



本日の例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ソング = 「我等の生業」
3. ゲスト、ビジターの紹介  
恵那ロータリークラブの皆様  
山本 好作君 (やまもと こうさく) 燃料油配布  
瀧瀬 雅治君 (こうけつ まさはる) 美容業  
高木 良直君 (たかぎ よしなお) ダンボール製造  
山内 敏敬君 (やまうち としひろ) 生花配布  
西山 隆志君 (にしやま たかし) 鉄骨建築工事  
中邑 志津子さん (なかむら しづこ) 事務局
4. 食事と交歓
5. 9月のお祝い・皆出席表彰
6. 会長の時間
7. 出席報告、ニコボックス発表、委員会報告、幹事報告
8. 卓話 原 眞平情報・研修委員長  
テーマ「はなしにならない歯の話」  
雑誌の紹介(ローターの友・月信)／情報・研修委員会担当
9. 閉会点鐘

卓話者紹介



原 眞平君 (はら しんぺい)  
生年月日：1949年(昭和24年)11月18日  
職業分類：歯科医

恵那郡福岡町下野(現中津川市下野)出身  
1974年3月 愛知学院大学歯学部卒  
1977年3月 市内駒場町にて駒場歯科診療所開設  
1981年1月 現在地に原眞平歯科診療室と改名し移転開設  
1992年1月 中津川ロータリークラブ入会  
2009～10年 中津川ロータリークラブ会長



会長の時間  
田口 義也 会長  
職業シリーズ②

十返舎一八 木曾街道中膝栗毛 弥次喜多道中 (中津川三宿 街道筋の巻)

今回の十返舎一八の弥次喜多道中は、どこまでホントかどこまで嘘か解らない古希でボケで年金生活者の弥次さんの鈴木力と、無口ではにかみやで、教養の塊弁護士の喜多さんの山本亮との中山街道中膝栗毛の始まりはじまり

**弥次** 「喜多さん 享和二年(1802年)にお伊勢参りではじまり金比羅参詣 宮嶋参詣と あれから10年、文化9年でっせ。中山道半ば愈々木曾路入りになりますよ。」

**喜多** 「愈々木曾街道ですか。大井本陣 鬼子母神 犬塚馬塚迄登坂続き、岡瀬沢から下り坂はようござんした。弥次さん！この小川が肺蔵川ですか。」(前回まで)

**喜多** 「お～い 弥次さん。茄子川焼だってよ。250年前(現在から440年)からの陶器でっせ。掲示板を読みなよ。読めない字が有ったらオイラが教えてやるからよ。弥次さんは努力するちからがないからね。」

**弥次** 「何をぬかしやがる。読んでやるから耳の穴かっぽじってよく聞きやがれ。『茄子川焼 茄子川焼は天正6年(1578年)の頃 瀬戸の加藤喜右衛門が諏訪の前の窯場に来て、施釉陶器を焼いたのが始めと言われています。天保3年(1832年)広久手の

丹羽九右衛門が先年より始めた陶器作りの改善を図り、土岐郡妻木村の加藤喜兵衛を師匠に迎えて磁器製造を起こしました。同8年篠原利平治が同じ広久手で陶器作りをはじめ、同14年には諏訪の前で安田新吉が土地の人々に呼びかけて、磁器製造を興しました。

茄子川焼が発展したのは弘化2年(1845年)篠原利平治が越中(富山県)から来た水野栄造と共同で5室の連房式登り窯を築いてからであります。人気があったのは陶土になまこ釉をかけて焼成した、独特の風雅な味を作り出した、奥州相馬焼に似た「茄子川相馬」で有りました。明治に入って窯株制度が廃止になると鯉ヶ平の藤井久左衛門が鈴木栄八と共同で九谷の職人を呼び寄せて、茄子川焼では珍しい九谷風の茶器などが焼きました。販路は木曾・伊那・松本方面が多く、中山道を旅する人々には峠の茶屋や陶元でも売って、村の重要産業として明治末期まで続けました。』どうだこの野郎。」

**喜多** 「恐れ入りました。」



茄子川焼

例会日 木曜日  
会場 中津川商工会議所 3F  
事務所 中津川商工会議所 3F

Tel. 0573-66-9933 Fax. 0573-66-8766  
E-mail : n-rc@takenet.or.jp  
HP : http://nakatsugawa-rc.jp

会長 田口 義也  
幹事 志津 竜良  
会報 山本 亮